

専齋 SENSAI



当院人材育成センターにおいて、さる平成28年6月4日に開催された“しょうぶフォーラム”の集合写真。しょうぶフォーラムとは自主参加によるグループワーク形式の研修会で、“急性期病院として継続していくために”をテーマに職種垣根を越えた活発な討議がなされました。職種間のコミュニケーションを深める良い機会となりました（詳細は本号記事8P参照ください）。

長崎医療センター座談会

千燈照院
 乳癌の最新治療

私の得意分野 ～医長紹介～

・多発性嚢胞腎-治療の新たな展開

最新医療紹介

・新専門医制度
 ～国立病院機構長崎医療センター
 形成外科研修プログラムについて～

TOPICS

- ・新任紹介
- ・『手術数でわかる いい病院2016』九州・沖縄地区ベスト20
- ・第52回九州内分科外科学会会長を終えて
- ・第53回九州外科学会優秀演題賞受賞
- ・“しょうぶフォーラム”を終えて
- ・平成28年度看護職員合同就職説明会に参加して
- ・フリーダイバー木下紗佑里さん講演会のご案内
- ・職場紹介
～治療検査センター(透析センター)～

- ・職場のホープ
治療検査センター(透析センター)
看護師 中村雄二、千葉恵里佳
- ・行事食紹介 ～あじさい御膳～
- ・夏の医学生見学会のご案内
- ・平成29年度研修医採用試験のご案内

連携医療機関の紹介

- ・上田皮ふ科
- ・岡循環器内科

医療センター講演・研修・テレビ出演等

編集後記

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

長崎医療センター

座談会 Vol. 12

千燈照院

千燈照院とは…
長崎医療センター千人の職員
が力を合せて高度医療の実現
にまい進する姿勢を表す言葉。

乳癌の最新治療

乳癌では、他の癌に先駆けて、個々の癌の性格に合わせた個別化治療が標準的治療法として確立されています。個別化治療を遂行するためには、外科医のみならず、放射線科医や病理医との緊密なチームワークが必要ですし、外科医にも単に切除するだけでなく、腫瘍全般の深い素養と経験が必須とされます。当院は全国レベルの大規模臨床試験にも参加しており、県下有数の乳癌診療の実績があります。今回は外科と放射線科のエキスパートから乳癌の最新の診療についてお話を伺います。

座談会出席者

内分泌・乳腺外科医長 前田 茂人
放射線科医長 溝脇 貴志
放射線科医師 坂本 綾美
聞き手：院長 江崎 宏典

江崎：乳癌の最新治療について専門の先生方にお話を伺いたいと思います。

まず、乳癌の患者数は増加傾向にあるということですが、いかがですか。

前田：乳癌患者は実際に増えていまして、国立癌研究センターでの予測データで女性の癌の中で罹患率は第一位です。年間10万人あたり100人くらいです。増加の要因の一つとして、検査機器の向上があり、早期の癌が発見されているということもあげられます。

江崎：乳癌全体も増えてきているし、早期に発見されるケースも増えてきており、それらの対策が急がれるということですね。坂本先生は画像診断が専門とお聞きしていますが、具体的にどのようなことをされていますか。

坂本：まずはマンモグラフィーです。地域の医療機関から紹介されてきた患者さんや乳癌検診の二次精査でこられた患者さんのマンモグラフィーの読影をしています。近年は一般の方に“乳癌検診を受けましょう”という啓蒙活動が盛んで、有名人が乳癌になったというニュースの影響もあり乳癌検診の受診率は上がってきていると思います。他にも、やはり侵襲が少ないということで超音波検査を行います。

江崎：乳癌はマンモグラフィーと超音波検査がスタンダードな検査なのですね。

乳癌が疑われた後は、どのような流れになるのでしょうか？

前田：超音波検査やマンモグラフィーで乳癌が疑われた場合には、次にMRIをします。その後に針生検を行い、組織学的に悪性かどうかを確認します。

針生検を行う理由は二つあり、一つは良性か悪性かを診断することです。もう一つは乳癌の性格を知ることです。ホルモン剤が効くのか、HER2分子標的薬が効くのか等、個別化治療のための情報を得ます。

江崎：癌の性格を決定づけてどういう治療をするかということですが、治療に関してもう少し詳しく教えてくださいか。

前田：大きく分けて「外科的治療」、「抗癌剤治療」、「分子標的薬治療」、「ホルモン治療」、「放射線治療」と5つの大きな柱があります。外科的治療ですが、30年前はハルステッド手術といい、乳腺や大胸筋を全部切除するというのがスタンダードで、その次は全乳房のみを切除するのが主流となり



内分泌・乳腺外科医長
前田 茂人
(まえだ しげと)
平成25年より現職

ました。その後、乳房温存手術が主流となり縮小手術の傾向となりました。

また、従来、当院での乳房再建術は、形成外科の先生に頼んで広背筋や腹直筋など自己組織で乳房再建をしていただいていたのですが、今年(2016年6月)からインプラントによる乳房再建ができるようになりました。再建を希望される方には選択肢が広がったと思います。

江崎：乳癌は比較的若い方も多く、見た目も大事ということで再建術を組み入れることで、手術後のQOLにも配慮するという方向に向かってきているのですね。ところで、個別化治療ですが、それぞれ何を組み合わ

せていくのですか。

前 田：個別化治療の柱はガイドラインに準じた治療ですが、患者さんによってはガイドラインでは判断が難しい方もいます。当院の特徴としてJCOGなど全国レベルの大規模臨床試験に参加しています。JCOGは全国で38施設、九州では4施設の限られた施設しか参加できません。大村でも都会と同レベルの最新治療をうけることができます。

また、ホルモン陽性の乳癌患者さんには遺伝子診断をかなり以前から取り入れており、10年後の再発予測を行い、ホルモン剤だけで良いのか、ホルモン剤に抗癌剤が必要かどうかを判断しています。個別化治療や臨床試験を行うことが、長崎県内では多くの患者様に來ていただいている理由ではないかと思えます。

江 崎：遺伝子診断を取り入れて納得いただいた上で治療を選択しているのですね。もう一つの治療の放射線治療ですが現状はどうか。

溝 脇：乳癌の患者さんに対して行う放射線治療の意義は大きく二つありまして、一つは原発巣、乳癌自体への治療です。先ほど前田先生からもお話があった通り、以前は大きく乳房、胸筋を含めて切除していたのが、だんだん切除する領域を少なくして病変とそのまわりだけを切除する治療に変わってきました。しかしそうすると乳房が残っている分だけ再発する危険性は高くなりますので、残った乳房に放射線をあてて再発を予防しております。以前の大きく切除していたときと小さく切除した後に放射線治療を加える方法とでは局所の再発率は変わらないというデータがあり、そうであれば切除領域を少なくするという方針です。もう一つは、乳癌は予後が長いので、骨や脳への転移の患者さんも少なからずいます。骨転移での痛みを和らげたり、脳転移による症状を改善する目的でも放射線治療を用います。

江 崎：乳癌の患者さんの予後はいかがですか。

前 田：乳癌は10年生存率で評価します。Stageは0からIVまでありますが、10年生存率で、Stage0は100%、Stage I で94%、Stage II で86%、Stage III で54%です。転移のあるstage IVの患者さんでも38%生存されています。乳癌に対する有効な薬がたくさんありますので、それらを組み合わせて長生きできるように

なってきました。Stage0はDCIS(非浸潤性乳管癌)という超早期の乳癌になります。

江 崎：それがよく最近見つかっているのですね。

坂 本：マンモグラフィーの性能が向上し、発見されるケースが多いです。

前 田：DCISが早期に発見されて、治療介入ができて予後の向上につながっていると思いますが、Stage II、III、IVの患者さんの予後も同様に良くなってきております。

江 崎：乳癌の最新治療の中で“多職種”というキーワードがあります。医師以外にもいろいろな職種の方が取り組んでいっていることも乳癌の治療成績を良いものにしていただいているのでしょうか。

前 田：おっしゃる通りでチーム医療が大切です。医師だけでは無理で、初診外来受診時の外来看護師、手術の時の病棟看護師による精神的介入は必要です。また、抗癌剤治療中は外来化学療法看護師と薬剤師により、副作用や精神的サポートを行います。多職種が関わることで患者さんは安心して治療ができています。当院では治療終了後、術後10年間は外来での経過観察を行っています。

江 崎：治療の目的である元気で長生き、まさにそれを実践されているのですね。

前 田：元気に長生きしていただくための当院の特徴は、①標準治療および臨床試験で最新治療を行うこと、②乳房再建や精神的介入などQOLを重視することです。また、今年4月から常勤の女医さん(森田道医師)が加わりましたので、パワーアップしたことを紹介しておきます。

江 崎：先生方の能力に加え、同性である女性の先生が治療してくれることは乳癌では大きいですね。本日はありがとうございました。



放射線科医師
坂本 綾美
(さかもと あやみ)
平成27年より現職



放射線科医長
溝脇 貴志
(みぞわき たかし)
平成27年より現職



私の得意分野～医長紹介～

多発性嚢胞腎-治療の新たな展開

腎臓内科医長 川崎 智子



腎臓内科医長を拝命いたしました川崎智子(かわさきさきとこ)と申します。身に余る重責でございますが一步一步、精一杯努力する所存です。前任者同様ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

腎代替療法の現況

腎臓内科が取り扱う治療の大きな柱に、腎代替療法【透析治療(血液透析、腹膜透析)と腎移植治療(生体腎移植、献腎移植)】があります。医療の進歩により腎不全患者の生命予後はよくなってきましたが、腎疾患患者は年々増加し、透析患者数は32万人を超えました。腎疾患の発症、進展予防対策を強化することは喫緊の課題となっています。

多発性嚢胞腎とは

多発性嚢胞腎は糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症に続く透析導入疾患です。常染色体優性多発性嚢胞腎(Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease: ADPKD)と常染色体劣性多発性嚢胞腎(ARPKD)とがありますが、より患者数が多く、新しい治療薬が登場したADPKDを取り上げます。

ADPKDは両側腎臓に多数の嚢胞が進行性に発生、増大し、腎容積増大とともに進行性に腎機能低下をきたす最も頻度の高い遺伝性嚢胞性腎疾患です。おおむね40歳ごろから糸球体ろ過率が低下し始め、約半数の患者が60歳代に末期腎不全に至り腎代替療法を必要とします。日本国内の患者数はおよそ3万人と推定されており、透析患者の3～5%を占めます。また腎臓以外にも肝嚢胞、脳動脈瘤、心臓弁膜症、高血圧症などを合併する全身疾患です。

多発性嚢胞腎の新たな治療薬トルバプタン

2014年3月にバソプレシンV2受容体拮抗薬(トルバプタン)が世界に先駆けADPKDの治療薬として承認されました。トルバプタンは心不全および肝硬変における体液貯留に対する利尿薬ですが、腎嚢胞の増大と腎機能低下の抑制効果が示され適応拡大となりました。1日60～120mgと利尿薬の用量と比して約10倍内服します。そのた

め入院治療での開始が原則で、尿量、排尿回数の増加は必発、尿量に見合った飲水量の確保などが重要になります。また以下の条件が必要です。

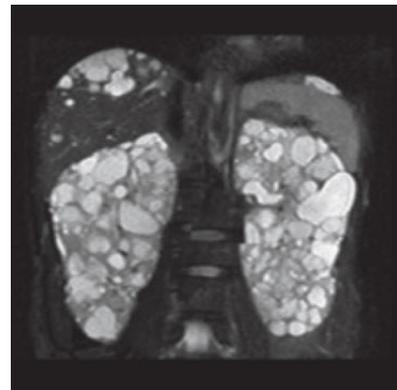
- 総腎容積(両側腎臓容積の合計)が750ml以上ある
- 総腎容積の増加率が概ね5%/年以上ある
- eGFR が $15\text{mL}/\text{min}/1.73\text{m}^2$ 以上

など

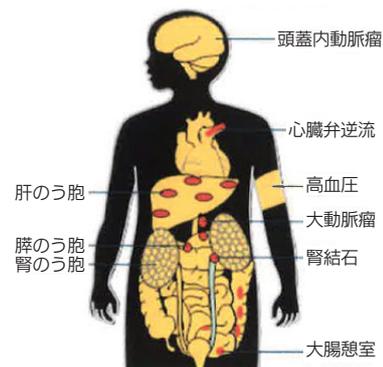
高額な薬剤のため医療費が気になるところですが、2015年1月より難病に指定され、難病医療費助成制度が受けられるようになりましたので、自己負担額は大幅に少なくなります。

おわりに

ADPKDは多くが家族内発症ですが孤発例も散見されます。また多発肝嚢胞や脳動脈瘤(破裂時も含め)などをきっかけに見つかる場合もあります。疑われる症例などありましたらお気軽にご相談ください。



①多発性嚢胞腎の腹部MRI画像



厚生労働省進行性腎障害調査研究班 多発性嚢胞腎診療指針：2010.8
②ADPKDの臨床所見

最新医療紹介

新専門医制度

～国立病院機構長崎医療センター形成外科研修プログラムについて～

形成外科部長 藤岡 正樹



国立病院機構長崎医療センター形成外科では、2017年4月から専門医研修を開始する後期研修医（専攻医）を募集します

初めに

形成外科は体表に生じた変形や機能障害に対して手術で形態・機能を回復させ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する専門分野です。従って、形成外科専門医は、この領域における幅広い知識と経験、高度な技術を習得する使命があります。これらの目的が達成できるように、当院形成外科では研修プログラムを作成しました。

国立病院機構長崎医療センター形成外科での研修の特徴

1. 豊富な臨床症例

国立病院機構長崎医療センター形成外科では毎年650例以上の手術を行ってきました。その実績は九州地区の中でも有数です。またその症例の種類も救急外傷、熱傷、先天異常、良性・悪性腫瘍、皮膚難部組織感染症、褥瘡と多岐にわたっています。（表1、表2）

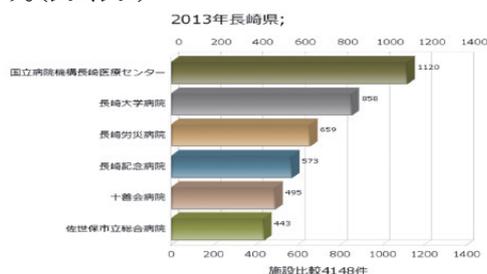


表1:長崎県内の形成外科施設の年間症例数



表2:中国・九州沖縄の基幹病院の年間手術点数

2. 頭蓋底・頭頸部再建のチーム医療

複数の診療科と合同で治療を行うチーム医療で、当科は再建外科としての重要な役割を担ってきました。特にマイクロサージェリーの高度な技術とを要する頭頸部癌の切除後再建症例は200例を超えて、その成功率は10年で97%、近々の

5年では99%であり、90-95%が標準と言われる手術成功率を遥かに凌駕しています。

3. 熱傷センター

長崎医療センターでは熱傷センターを併設し広範囲熱傷患者に対して、早期手術を行い良好な治療成績を収めています。広範囲熱傷では移植する皮膚が不足するため、自家培養表皮を使った治療を積極的に行っており、西日本で最も多くの臨床経験を持ちます。

4. 創傷センター

創傷センターは長崎県内で唯一の創傷治療に特化した専門センターであり集学的治療によって高度な医療を提供いたします。初診の時点から始まって診断、創の管理、合併疾患や栄養状態の管理、専門分野での手術加療、外来および長期フォローまで、高度かつ効率のよい治療を行います。

5. 創傷画像送信診察システム

当院形成外科ではE-mailを利用した「創傷画像送信診察システム」を開始しています。このシステムによって医療従事者に限らず、一般の患者や家族に適切な創管理、治療アドバイスを提供しています。

6. 末期がん患者に生じた皮膚潰瘍に対する緩和手術

進行癌の皮膚転移による皮膚潰瘍が生じた場合、創から出る大量の浸出液、出血、悪臭のため家庭での創管理ができません。そのため患者は入院生活を余儀なくされる場合がしばしばあります。当科では、緩和手術としてこれら皮膚潰瘍に苦しむ末期患者に対する創閉鎖を行い末期患者のQOL向上に寄与しています。

7. 重症四肢損傷、顔面骨骨折

当院救命救急センターはドクターヘリを有し、あらゆる重傷外傷を受け入れます。常時、切断指(肢)や顔面多発外傷、重度熱傷など高度で専門的な手術に応需しており良好な治療結果を残しています。

8. プログラムでは地域医療の研修が可能

五島中央病院と連携のうえ、3カ月程度の離島研修も体験できます。

国立病院機構長崎医療センターで熱意ある指導医とともに、幅広い臨床経験を積み、真の実力を備えた専門医と一緒に目指しましょう。

新任紹介



整形外科医長
崎村 俊之

6月より重工記念長崎病院(旧三菱長崎病院)より赴任してきました整形外科の崎村と申します。これまで肩関節や膝関節の鏡視下手術、人工関節置換術などの関節外科を中心に診療を行ってきました。長崎医療センターの一員として貢献できますように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



産婦人科レジデント
古賀 恵

6月から産婦人科レジデントとして勤務させていただきます。私は初期/後期研修とここ長崎医療センターで学び育ててもらいました。5年ぶりにまた同じ地で働くことができ大変嬉しく思うとともに身が引き締まる思いです。至らぬ点も多いかとは思いますが日々精進してまいりますのでどうぞよろしくお願ひ致します。



整形外科医師
依田 周

この度、重工記念長崎病院(旧三菱長崎病院)より転勤となりました依田(よだ)と申します(長野県出身です。読みなれないですがこれを機に覚えていただければ幸いです)。脊椎疾患を中心に診療を行っておりました。1日も早く業務に慣れ円滑な診療ができるように心がけていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



消化管内科レジデント
中尾 康彦

6月より消化管内科レジデントとして勤務いたします。先生方、スタッフの方々にご指導ご鞭撻頂きながら、患者様のために誠心誠意努力していく所存です。また、専門的な領域や治療を含めた医療に携わっていければと思っております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



神経内科
島 智秋

初期臨床研修の2年間で当院で研修し、3年目も引き続き、総合診療科レジデントとして研修させていただきました。その後、神経内科医師として長崎大学病院、佐世保市総合医療センターでの勤務を経て、2年ぶりに帰ってきました。至らない点が多々あるかと思ひますが、よろしくお願ひいたします。



TOPICS

『手術数でわかる いい病院2016』九州・沖縄地区ベスト20

週刊朝日MOOK『手術数でわかる いい病院2016』(朝日新聞出版発行)にて、当院が6項目で九州・沖縄地区ベスト20にランキングされましたのでご報告致します。

今後も、地域の皆様に信頼される病院を目指していっそう努力していく所存です。



項目	症例数	順位
胃がん手術データ	80例	9位
大腸がん手術データ	118例	14位
大腸がん内視鏡治療データ	75例	1位
肝胆膵がんデータ	62例	17位
肺がん手術データ	81例	16位
乳がん手術データ	124例	15位

TOPICS

第52回九州内分泌外科学会会長を終えて

外科医長 前田 茂人

2016年5月13・14日、ハウステンボスにて九州地方会を開催しました。長崎大学移植消化器外科江口晋教授および教室員の援助のもと、九州内分泌外科学会を担当し、ハウステンボス人気と晴天に助けられ440名の方に参加していただきました。次回2017年の本学会が熊本開催予定であり、熊本復興や九州に元気を取り戻すため、学会だけでなく情報交換会も元気に執り行いました。研修医セッションでは、当院野口美帆君が優秀賞を受賞し、長崎医療センターの底力を示してくれました。一年にわたる準備期間中や学会会期中は、多くの先輩、後輩、そして医療センターのスタッフに支えていただき、本当にありがとうございました。



TOPICS

第53回九州外科学会 優秀演題賞受賞

2年次研修医 野口 美帆

2016年5月13日・14日に行われた第53回九州外科学会で、「術前補助化学療法を施行した食道類基底細胞癌の1切除例」という演題の筆頭演者として発表し、研修医セッションの優秀演題賞を受賞することができました。今回の受賞を糧に、日々の診療をより一層の熱意を持って取り組んでいきたいと思えます。この度ご指導いただいた外科の藤岡ひかる先生、谷口堅先生、病理の伊東先生をはじめとした諸先生方に、重ねてお礼申し上げます。



“しょうぶフォーラム”を終えて

統括診療部長 松岡 陽治郎



さる6月4日(土曜日)午前9時から午後3時、当院人材育成センターにて“しょうぶフォーラム”を開催しました。“しょうぶフォーラム”とは、組織横断的グループワーク型の自主参加職員研修で、様々な職種間での自由な意見交換を通して、職員同士の和を深め、現場から病院への提言を作成することを目的としています。“しょうぶフォーラム”の“しょうぶ”は大村公園の花菖蒲に因んだもので、①この6月の時期が見頃である事、②花菖蒲には多くの種類や系統があり、それぞれが個性的で美しい花を咲かせながら全体として調和しているという様がチーム医療のあるべき姿と共通している事、③しょうぶに勝負をかけて、今まさに急性期病院としての存続をかけての勝負に職員一丸となって取り組む決意、などの意味を込めて命名しました。このようなタイプの職員研修は当院では初の試みですが、すでに同じ国立病院機構に属する九州医療センターや熊本医療センターでは懇親会を含めた泊まり込みの研修が毎年恒例で実施されており、その実施は当院でも懸案事項のひとつでした。

当日は週末にもかかわらず、管理職を中心に81名の参加がありました(医師26名、看護師34名、医療技術職8名、事務部13名)。初年度である今回の全体テーマは“急性期病院として病院を継続させていくために”としました。これは、今年度から当院はDPC II群病院となり同時に総合入院体制加算1を取得したことで7:1急性期病院として地域医療に貢献するという方針が明確に定まったからです。グループワークのグループ別検討テーマとして、①新入院確保、②費用削減、③病棟再編の三つを取り上げ、全8グループで分担

し、討議しました。グループワークに先立ち、日本血液製剤機構参事 谷澤正明先生による講演“診療報酬改定から見る医療制度改革の方向性～長崎医療センターはいかに対応するか～”、続いて江崎院長による基調講演“長崎医療センターのこれから これからの地域医療”を聞いていただき、議論の前提となる当院の今後の方向性について見解の統一を図りました。

発表はパワーポイントを用いて1グループあたり10分かけて行いました。和気藹々とした雰囲気の中、活発な質疑応答がなされ所定の時間があっという間に過ぎてしまいました。内容は短時間でまとめたとは思えない中身の濃いもので、職員の皆さんの能力の高さを示すとともに今後の病院運営に於いても有益な示唆を含む提言が多々ありました。

病院の規模が大きくなり職員数が増えれば増えるほど、横の関係性が希薄となり、緊密な連携に裏付けられた高度医療の実践に支障をきたす危険性が生じてきます。研修終了後のアンケートでは、“職種を越えて自由にディスカッションができて有意義だった”という意見が多くみられ、職員間のコミュニケーションを深めるという一義的 목적は達成されたように思います。開催について、毎年実施する方が良い65%、実施しなくてよいは0%と、前向きな姿勢が見て取られ、毎年恒例の行事として定着させていきたいと考えています。

お疲れのところ休日にもかかわらず参加いただいた多くの職員の皆様に心より御礼申し上げます。千人の職員が力を合わせて地域の高度医療を担うという、当院のモットー“千燈照院”の精神が根付いている事を実感する良い機会となりました。



TOPICS

平成28年度看護職員合同就職説明会に参加して

副看護師長 宮崎 美紀、深川 千晶

平成28年5月28日(土)長崎県立総合体育館サブアリーナにて、平成28年度看護職員合同就職説明会が開催されました。県下51施設の医療機関の参加があり、長崎医療センターも参加しました。九州グループ開催の福岡・鹿児島などでの就職説明会に続き、長崎会場が最後となりました。

各ブース、ポスター旗を掲げるなど医療機関毎に思考を凝らしてあり、長崎医療センターでは人材確保プロジェクトチームで作成したポスターを掲示し、NMCオレンジポロシャツで臨みました。

全体での参加者304名中97名の方が長崎医療センターのブースに立ち寄って下さいました。看護大学1～4年生、医師会看護学校、再就職希望の方など年齢層も様々でしたが、パンフレットに沿って病院の概要を説明し、各質問に答えていきました。印象としては1年生に病院の概要を説明すると言っても、今一つピンときていない表情を浮かべる学生が多く、まだまだ就職するという実感はないような印象を受けました。しかし、こんな早い時期から興味を持って参加してくれる学生がいることは大変嬉しく感じました。

今回就職説明会には初めて参加しましたが、いかに多くの学生が魅力的と思ってくれるPRをしていくかがとても大切だと思いました。

オレンジのポロシャツもとても目立つようで、他の病院スタッフからは「すごく明るい色だから、学生さん達が立ち寄りやすいですね、うらやましい」との言葉をかけて頂きました。このオレンジに負けぬように、魅力的な病院づくりに取り組んでいきたいです！



TOPICS

フリーダイバー木下紗佑里さん講演会のご案内

木下紗佑里さんは大村市出身。フリーダイビングの競技者としてめきめきと頭角を現し、今マスコミ等でも大きな注目を集めています。フリーダイビングとは、ボンベ等による補助のない素潜りのことで、木下さんは2013年にフリーダイビングと出会い、2015年5月のバハマ国際大会で、アジア人初となる女子総合優勝を果たし、あっという間に頂点を極めました。また、直近の2016年4月同大会ではコンスタントノーフィン-72mを成功させ、ロシアのナタリア・モルチャノバ選手が長く保持し更新不可能とされていた記録を塗り替え世界新記録を樹立しました。トップアスリートとして、試合に臨む心構えや心身のコンディション作り、集中力の保ち方、特に若い人へのメッセージとして、世界を相手に競技を続けて行く事の厳しさ、充実感など、伝えていただけるものと期待し

ています。世界を極めた木下紗佑里さんの講演会に、皆さまお誘いあわせのうえ奮ってご参加下さい。

世界記録樹立

種目 CNF(コンスタントノーフィン)
記録 -72m

フリーダイバー
木下紗佑里 講演会
国立病院機構長崎医療センター『生涯教育講座』

“世界記録への道のり”

日時 平成28年7月7日(木)
19:00～20:15
場所 長崎医療センター
地域医療研修センター

職場紹介 ～治療検査センター(透析センター)～

看護師 田中 みゆき

透析センターは、今年4月に赴任された腎臓内科医長を含め医師3名、臨床工学士3名、看護師長、看護師8名でチーム医療を行っています。

平成26年9月に新透析システムが導入され、透析センターもバージョンアップし、更なる看護の質の向上を目指して、日々奮闘中です。

透析システムは体重計と一体となっており、体重測定すると透析記録に自動入力される優れものです。

昨年、新人看護師が2名配属されました。新人教育を行いながら私達も成長させてもらったと思っています。今年は2年目看護師として、日常生活指導や透析治療に

関する指導・教育に目を向けた看護を、患者さんに提供できるよう指導していきます。

透析患者数も年々増加しており、慢性腎臓病のCKD対策として地域の透析医療施設と連携し、透析を受けられる患者さんが安全・安楽に治療を行なえるよう、日々精進していきたいと思っています。皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。



TOPICS

職場のホープ 治療検査センター(透析センター) 看護師 中村雄二、千葉恵里佳

治療検査センター 看護師長 松山 かおり

皆さん、こんにちは。透析センター配属看護師の中村雄二さん、千葉恵里佳さんを紹介いたします。透析センターに昨年新人看護師として配属され、早いもので1年が経ちました。

透析センターは、ワンフロアで外来・入院患者さんの透析治療の看護・処置介助等を行っています。日常の透析看護の中で、受け持ち患者さんに合った看護計画立案や看護の実践、看護過程の展開について、現在、先輩看護師の指導を受けながら頑張っているところです。

今年度は、2年目看護師として更に成長してもらいたいと思い、研修を案内したところ、透析従事者研修に自分達の意志で「参加したい」と意欲のある言葉が返っ

てきました。

これまでの学習の成果と、研修で得た知識、また他施設の研修参加者とのコミュニケーションをとる中で自己の振り返りもできる良い機会と思います。研修後の2人の今後の活躍を、腎臓内科医師・臨床工学士・透析センター看護師皆で楽しみにしています。



TOPICS

行事食紹介 ～あじさい御膳～

栄養管理室 荒木 翔太

6月といえば梅雨、あじさいが思い浮かびます。そこで今月の行事食はあじさい御膳と名づけ食事提供しました。長崎ではあじさいを「おたくさ」と呼ぶこともあるそうです。そこには紫陽花をヨーロッパへ広めたシーボルトが関係しており、恋人のお滝さんが由来と言われています。今回は行事食ということもあり、大村の郷土料理であるにごみに加え、常食では梅とちりめんじゃこの混ぜごはんにして涼しさを表しました。またデザートは、あじさいに見立てたゼリー

(ブドウゼリー)を調理師が手作りし、より6月の雰囲気を感じられるようにしま

した。患者さんからも好評で皆で協力し取り組んでよかったです。来年度はさらにレベルアップした食事を提供できればと考えています。今後も患者さんに喜んでもらえるように取り組んで参りたいと思います。



TOPICS

夏の医学生見学会のご案内

7月4日より長崎医療センター夏の医学生見学会を開催いたします!

病院見学会では診療科見学はもちろん、研修医の当直見学など内容盛りだくさんです。

九州をはじめ全国の医学生の皆さまの参加をお待ちしています!

【対象】

医学部4年生、5年生、6年生

【見学受け入れ日】

平成28年7月4日(月)～9月2日(金)の平日

※見学会希望日の1週間前(木曜日)までに応募のこと。

詳細・お申込みは長崎医療センター HPをご覧ください。

<http://www.nagasaki-mc.jp/pages/206/252/433/567/>



2016 SUMMER 医学生見学会

7/4(月)～9/2(金)

申し込み方法
詳細はHPをご覧ください。
<http://www.nagasaki-mc.jp>

※平日のみ 交通費の助成あり

独立行政法人 国立病院機構
長崎医療センター TEL:0957-52-3121
E-mail: kensyu@nagasaki-mc.com

TOPICS

平成29年度研修医採用試験のご案内

29年度研修医採用試験の受験者を下記日程で募集しております。

【第1回】 8月12日(金)

試験会場：長崎医療センター
(8/8(月)応募書類必着)

【第2回】 8月13日(土)

試験会場：JR博多シティ会議室
(8/8(月)応募書類必着)

【第3回】 8月19日(金)

試験会場：長崎医療センター
(8/15(月)応募書類必着)

【第4回】 8月20日(土)

試験会場：リファレンス博多駅前
(8/15(月)応募書類必着)

【第5回】 8月26日(金)

試験会場：長崎医療センター
(8/22(月)応募書類必着)

採用方法：公募により選考をおこなう(マッチングに参加する)。

【小論文】 選考日に実施、課題について800字程度を60分間で論述。

【面接審査】 個人面接で、ひとり20分程度の面接

応募方法：当院HPにてご確認ください。

<http://www.nagasaki-mc.jp/pages/206/252/545/546/>



連携医療機関の紹介

●上田皮膚科 院長 上田 厚登

皆様、こんにちは。当院は小路口町の大村インターチェンジからすぐそばに位置しており、昨年7月10日に開院し、ようやく1年目を迎える新しいクリニックです。

皮膚科は特徴上、乳幼児からご高齢の方まで幅広い年齢層の患者さんが受診されます。その疾患も湿疹・白癬・にきびなどの一般的なものから、なかには薬疹や悪性腫瘍など専門性が必要とされるものの初期対応なども求められます。開院してから皮膚は内臓の鏡であるのみならず心の鏡であることを強く感じるようになりました。患者さんにとっては、皮膚の発疹や痒み、痛みなどの直接的な身体問題よりも精神的苦痛の方が強い負担となつてのしかかっている場合もあります。その際には一人一人とのコミュニケーションを特に大切にしながら、その方のニーズを汲み取った画一的ではない治療を行うように心がけるようにしております。

現在、長崎医療センター様には、皮膚科のみならず多くの診療科の先生方にご紹介申し上げ、大変お世話になって

おります。誌面をお借りして感謝申し上げます。当院はまだまだ新しいクリニックではありますが、いち早く地域の皆様の皮膚のかかりつけ医となり、患者さんが受診して良かったと満足できる医療を目指してまいります。今後とも微力ではございますが、地域医療に頑張っていきますので、何卒よろしくお願いいたします。



〒856-0025 大村市小路口町244-7
電話:0957-47-6707 FAX:0957-47-6708

●岡循環器内科 院長 岡 浩之

平成19年より父が院長を務める岡循環器内科に勤務し、10年目を迎えました。

当院の前身である岡内科医院は昭和44年に開業し、些細なことでも気軽に悩みを相談できるクリニックとして、日々診療に当たってまいりました。

長崎医療センターの先生方には、日頃より多くの患者様を紹介させて頂いておりますが、昼夜問わずの真摯なご対応を頂き、本当に感謝しております。

昨今は急増しておりますうつ病、認知症などの患者様が当院でも増えており、また超高齢化に伴い、在宅ケア、在宅看取りの需要が増す中、当院は積極的に在宅医療を受け入れておりますが、我々開業医が安心してそれらに取り組めるのは、長崎医療センターなどの基幹病院のバックアップがあればこそです。

今後、地域包括ケアシステムの構築が急がれており、長崎医療センターの先生方には、これまで以上に県央地域の医療・介護・福祉環境を見据えた上での医療をお願いするこ

とになり、甚だご多忙の中、大変ではございますが、ご尽力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

当院も微力ではございますが、貴院との病診連携に対応出来るように、日々研鑽を積みしたいと思います。



〒856-0826 大村市東三城町190
電話:0957-52-3000 FAX:0957-52-3340

医療センター講演・研修・テレビ出演等(7月)

フリーダイバー木下紗佑里さん講演会

開催日	時間	開催場所	内容	講師
7月7日(休)	19:00~20:15	地域医療研修センター	世界記録への道のり	フリーダイバー:木下紗佑里

NST勉強会

開催日	時間	開催場所	内容	講師
7月11日(月)	18:00~	あかしやホール	口腔ケアについて	歯科衛生士:陣ノ内麻美

看護ケア研修会

開催日	時間	開催場所	内容	講師
7月12日(火)	18:00~19:00	あかしやホール	点滴カテーテルの管理(ポート含む) 尿道留置カテーテルの管理	がん化学療法看護認定看護師:村上摩利 感染管理認定看護師:中村みさ

第3回がん化学療法セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
7月21日(休)	19:00~19:30	あかしやホール	過敏症	がん専門薬剤師:植村隆 がん化学療法看護認定看護師:富永美希

大村東彼歯科医師会主催 平成28年度医科・歯科連携に資する人材育成のための研修会事業

開催日	時間	開催場所	内容	講師
7月21日(休)	18:00~19:30	地域医療研修センター	がん拠点病院と地域歯科医師会の連携	長崎大学病院周術期口腔管理センター 講師:五月女さき子先生

第1回放射線治療セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
7月27日(水)	18:00~19:00	臨床研究センター会議室	放射線治療ってどんなもの?	放射線科医長:溝脇貴志先生

CPC

開催日	時間	開催場所	内容	講師
7月28日(木)	18:30~20:00	あかしやホール	イレウス	症例担当:大坪智恵子先生、中村俊貴先生、水崎俊先生 臨床指導:和泉泰衛先生 病理指導:黒濱大和先生

これらの講演は、地域の医療従事者の皆様に開放しています。詳細は病院のホームページをご参照下さい。 <http://www.nagasaki-mc.jp/pages/205/>

●編集後記

臨床研究センター臨床疫学研究室長 山崎 一美

情報発信とインパクト

5月は日本肝臓学会総会、最新の情報が発信されます。最近C型肝炎に対する新規の内服薬が登場したことで、これに関する演題を集めた会場は満員で、入口の外まで人があふれたりします。そのなか、ある演者の一枚のスライドが私の目を引きました。当院が2015年に発表した論文のfigureが示されていたからです。当時、当院のレジデントだった佐々木龍先生が、多忙な診療業務をしながら、その論文を投稿しました。C型肝炎ウイルスが駆除されれば肝がんのリスクは相当下がります。しかしそれでもがんが出る可能性があります。そのような症例を効率よく予測しようとするのが佐々木先生のテーマでした。そして血液検査でわかる糖鎖修飾異性体M2BPGiが有用であると世界で初めて報告しました。彼の研究成果が他の専門施設の

研究動機に火を付けたわけです。今回の学会ではこの施設だけでなく、私が見ただけでも他に3人の演者が佐々木論文のfigureを引用して発表していました。佐々木論文は掲載後1年に満たない期間ですが、すでに8つの海外論文に引用されています。これだけでもうれしいことですが、今回の学会発表で少なくとも4演題に引用されている様をフロアから拝見でき、共著者としてもさらなる喜びが湧いてきました。患者さんにとって、臨床家にとって、インパクトのある情報発信は、医療者の日々の目標と考えています。

わたしは、5月から長崎医療センターの情報誌「専齋」を編む業務に携わるようになりました。病院内では有益な情報が日々発生しています。これらを多くの皆様にわかりやすくお伝えしていくことができますよう努めてまいります。

外来診療担当医一覧表

(★は新患対応)平成28年7月1日～

		月	火	水	木	金	
総合診療科	第1新患	★ 辻 徹 ★ 大野 直義	★ 荒木 利卓 ★ 川原 知瑛子	★ 森 隆浩 森 英毅	★ 森 英毅 森 隆浩	★ 川口 勝輝 ★ 和泉 泰衛	
	第2新患		和泉 泰衛	荒木 利卓		大野 直義	
	内科 専門外来	肝臓 (消化器)	★ 内田 信二郎 ★ 戸次 鎮宗 ★ 長岡 進矢 ★ 阿比留 正剛	★ 佐伯 哲 ★ 戸次 鎮宗 ★ 内田 信二郎	★ 八橋 弘 ★ 小森 敦正 ★ 山崎 一美	山崎 一美 ★ 長岡 進矢 ★ 小森 敦正 ★ 橋元 悟	★ 阿比留 正剛 ★ 橋元 悟
			消化管	西山 仁	★ 後藤 高介 福田 浩子	西山 仁	
		内分泌・代謝	明島 淳也	藤田 成裕(糖尿病) ★ 池岡 俊幸	藤田 成裕	池岡 俊幸(再来のみ)	
		腎臓	★ 辻 清和		川崎 智子 ★ 山下 鮎子	山下 鮎子 ★ 川崎 智子	辻 清和 ★ 川崎 智子
		循環器	於久 幸治	春田 真一	★ 田中 規昭	松尾 崇史	深江 貴芸
		呼吸器	★ 岩永 直樹 土井 誠志	★ 永吉 洋介	長島 聖二 ★ 土井 誠志	★ 久富 恵子	★ 長島 聖二 久富 恵子
		血液	★ 中島 潤 北之園 英明	★ 牧山 純也	★ 吉田 真一郎	牧山 純也 中島 潤	★ 吉田 真一郎
		神経		岩永 洋	鳥 智秋(午前は再来のみ)		岩永 洋
		リウマチ・膠原病	右田 清志		岩永 希	岩永 希	
		循環器			於久 幸治(再来のみ)		
	午後	神経	山田 寛子				
	血液					★ 北之園 英明	
	小児科	午前	★ 田中 茂樹(神経) ★ 橋本 和彦(新生児・乳児) ★ 桑原 義典(一般) ★ 本田 涼子(一般・神経)	★ 安 忠輝(一般) ★ 瀧口 陽(新生児・乳児) ★ 内田 信宏(一般)	★ 内田 信宏(一般) ★ 和泉 啓(内分泌) 本田 涼子(再来のみ) ★ 青木 幹弘(新生児・乳児)	★ 桑原 義典(一般) ★ 庄司 寛章(一般)	★ 田中 茂樹(神経) 本村 秀樹(心臓・再来のみ) ★ 青木 幹弘(一般) ★ 安 忠輝(一般)
午後		本村 秀樹 桑原 義典(心エコー)	田中 茂樹(神経) ★ 本村 秀樹(心臓)	一ヶ月健診	青木 幹弘 橋本 和彦 瀧口 陽 庄司 寛章 土居 美智子		
精神科	★ 橋口 知幸 蓬萊 彰士(午前のみ)	★ 橋口 知幸 蓬萊 彰士 田中 大三	★ 蓬萊 彰士 橋口 知幸	★ 蓬萊 彰士 橋口 知幸 田中 大三	★ 田中 大三 橋口 知幸		
皮膚科	★ 三根 義和	★ 大久保 滯	★ 三根 義和	★ 大久保 滯	★ 三根 義和		
外科	★ 黒木 保(肝・胆・膵・消化器) ★ 徳永 隆幸(小児) ★ 北里 周(肝・胆・膵・消化器)	★ 前田 茂人(乳腺・甲状腺) ★ 渡海 大隆(消化管) ★ 森田 道(乳腺・甲状腺)	★ 藤岡 ひかる(肝・胆・膵・消化器)	★ 前田 茂人(乳腺・甲状腺) ★ 谷口 堅(食道・胃・大腸) ★ 森田 道(乳腺・甲状腺) 永田 康浩(食道・胃・大腸)	★ 竹下 浩明(胃・大腸) ★ 久芳 さやか(乳腺・甲状腺) 宇賀 達也(乳腺・甲状腺)(午後のみ)		
	呼吸器外科		★ 田川 努 ★ 持永 浩史				
心臓血管外科	午前		★ 有吉 毅子男 ★ 尾立 朋大	濱脇 正好(再来のみ)	★ 濱脇 正好(小児心臓外科) ★ 有吉 毅子男 ★ 尾立 朋大 ★ 小野 智恵 ★ 佐藤 慧		
脳神経外科	★ 戸田 啓介 ★ 牛島 隆二郎	★ 堤 圭介	★ 日宇 健		★ 浅原 智彦 ★ 内山 迪子		
整形外科	★ 浅原 智彦 内山 迪子	★ 熊谷 謙治 依田 周 崎村 俊之 中島 武馬	★ 崎村 俊之 中島 武馬	熊谷 謙治 ★ 依田 周	浅原 智彦 ★ 内山 迪子		
リハビリテーション科	浅原 智彦	中島 武馬	崎村 俊之	依田 周	内山 迪子		
形成外科	藤岡 正樹 石山 智子		福井 季代子 石山 智子	藤岡 正樹	福井 季代子		
産婦人科	梅崎 靖 福田 雅史	安日 一郎 山下 洋	菅 幸恵 杉見 創 産褥1ヶ月検診(午後) ★ 松屋 福蔵	楠田 展子 福岡 操 産褥1ヶ月検診(午後) ★ 山崎 安人	安日 一郎 菅 幸恵 ★ 大仁田 亨		
泌尿器科	★ 大仁田 亨 ★ 松屋 福蔵				★ 大仁田 亨		
移植後フォローアップ外来	松屋 福蔵		松屋 福蔵				
耳鼻咽喉科	田中 藤信 奥 竜太 久永 将史	加瀬 敬一	田中 藤信 奥 竜太 久永 将史	奥 竜太	加瀬 敬一 田中 藤信		
眼科	稲本 美和子 諸岡 美智子 木下 明夫 高畑 太一 中尾 志郎	稲本 美和子 諸岡 美智子 木下 明夫 高畑 太一 中尾 志郎		稲本 美和子 諸岡 美智子 木下 明夫 高畑 太一 中尾 志郎	稲本 美和子 木下 明夫 高畑 太一 中尾 志郎		
放射線科		溝脇 貴志 放射線治療			溝脇 貴志 放射線治療		
麻酔科(漢方)(午前のみ)		谷口 美和(院内紹介のみ)					

※当院は地域医療支援病院です。初めて受診される場合は、原則、紹介状が必要です。『かかりつけ』等からの紹介状をお持ちいただきますようお願いいたします。紹介状なしで受診を希望される患者さんにつきましては、診察料とは別に保険外併用療養費として5,000円をご負担いただきます。特に、専門外来の受診には予約が必須です。お近くまたはかかりつけの医療機関にご相談いただき、『初診予約票』と『紹介状(診療情報提供書)』を用意してからご来院ください。

【予約受付時間】月～金 8:30～16:30(16:30以降については、翌日の取扱いとなります)

【休診日】土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 地域医療連携室

問い合わせ・資料請求・予約; TEL.0120-731-062 FAX.0120-731-063

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する